

# 白河高校同窓会報

発行所  
郵便番号 961-0851  
福島県白河市南登り町54  
白河高校同窓会  
☎0248-24-1116

発行人  
鈴木雅文  
編集委員長  
堀川哲雄  
南古楓堂堀川印刷所



## 同窓会長就任のご挨拶

同窓会長 鈴木雅文(高28)

去る、五月十八日(土)、令和元年度白河高等学校同窓会が東京第一ホテル新白河にて開催され、その席に於きまして、新同窓会長として選任され、ご出席の同窓会会員の皆様にご承認を賜り、第十三代同窓会長に就任いたしました。

大正十一年に多くの市民の要望に応え、県内七番目の県立の白河中学校の創立以来、九十七年の歴史と伝統に支えられ、現在まで二万四千を超える多くの卒業生を輩出してまいりました。創立当初は、県の予算では教材や備品が不足して、満足な授業も出来ない状況の中、有志にて後援会を組織し町内有志より寄付を求め、窮状を脱したと記念誌にて読ませていただいた記憶があります。各時代に於いて、諸先輩方が母校発展のため尽力

された事を、今後は私どもが後輩のために尽くしていかなければと決意をするところです。

また、私の大きな仕事は、2022年の白河高校創立百周年の準備を万全なものとする事と心得ております。今までも各周年事業をそれぞれの時代の役員

の皆様が、大変なご苦労の中、執り行つてまいりました。その集大成として百周年記念事業を、学校当局と保護者と教師の会、白河高校後援会と共に準備を重ねてまいります。現在は、創立百周年記念事業実行委員会設立準備会として、何時、何を、どのような形で、どのような規模で行うかを検討模索しているところでございます。この準備会をあと数回重ねた後、来年には、実行委員会組織を立ち上げる所存です。現在は、全ての元となる

同窓会名簿を先んじて完成を目指しているところ。また、膨大な時間と準備を必要とする

記念誌は、実行委員会の発足を待たずに、堀川哲雄常任理事(高15)を責任者とし記念誌の構成と資料の収集を先駆けて始めさせていただいているところです。また、百周年専用のホームページを作成すべく、現在内容の検討に入ったところであります。このホームページと同窓会報を中心に据え、百周年の企画や募集を会員皆様にお届けできればと思っております。

いずれにいたしましても、この百周年記念事業は多額の予算と多くの人的労力が必要になってまいります。各学年単位の同窓会理事の皆様、同窓会報を通じてご賛同をいただける皆様、そして県内外の企業の皆様の大なる募金を頂けます様努めてまいりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

また、通年の同窓会活動といえます。支部の再構築に力を尽くしてまいり所存であります。現在活動しておられるのは、東京の東京登龍会、西郷支部、埼玉支部、の3支部のみとなっております。これを数年かけて各

地区に支部の再結成を図っていければと考えております。私は、母校愛、後輩への支援の源となるのは、支部という単位が原点であると考えております。地域の卒業生が一同に会し、先輩から歴史や伝統をもう一度お教えを頂いたり、近い学年の方々と思い出話に花を咲かせ、白河高校の現状や取り巻く環境をお話いただくことが、白河高校同窓会にとって大きな活力になることであると考えております。また、現在、同窓会を運営する基礎的な財源であります賛助会費が、今までご協力を頂いていた方々の高齢化により、年々厳しくなっている現状がございます。健全な財政運営を基に、同窓会

の主たる目的であります親睦、融和、学校への賛助を果たす上でもこの賛助会員の増加を図っていかねばと考えております。私、高校二十八回卒の若輩者で、更には自分が浅学非才であることは十分に理解をしているところでございます。しかし、当時の先生方、同級生、先輩後輩に薫陶を頂き、母校に育てて頂いたとの感謝の気持ちと皆様に負けない母校愛を持つております。皆様のお力添えを頂き職務を全うしたいと考えております。どうぞ、前会長に頂きましたご支援を私にも頂戴できますれば幸甚に存じます。



第93回国展「晨」 小林 豊(高26)

(178 cm × 72 cm × 62 cm)



### 百周年に向けさらに 地域から愛される学校へ

校長 田中 誠

同窓生の皆様、日頃より本校教育にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。皆様の本校に対する熱い思いが、地域からの期待にも大きく反映されていると感じています。

生徒たちは意欲的に学校生活に取り組んでいます。今春の大学入試において、3年連続で国公立大学合格者数が100名を上回ることができました。特筆すべきは、東京大学に現浪併せて2名、北海道大学医学部にはおそらく本校で初めて合格者を出すことができたことです。諦めず粘り強く生徒たちが戦ってくれましたが、多様化された入試の中で、果敢にチャレンジしたことが結果に繋がったと考えています。部活動においても、今年度も剣道女子団体、陸上八種競技、弓道個人・団体、書道、写真美術部がそれぞれ全国大会に進めることができました。陸上八種競技では、根本大輝君がベスト16、書道部門において、佐藤朱音さんが特別賞受賞、さらに弓道団体では全国四位という快挙を成し遂げました。そのほかにも吹奏楽部がコンクール県大会において15年ぶりに金賞を受賞するなど、本校ではそれぞれの競技力・表現力を高めようと懸命に努力している生徒たちの姿を日常的に見ることができま

す。今年度は南九州で行われたインターハイの応援に足を運び、生で観戦しなければわからない多くのことに触れる機会に恵まれました。剣道は、惜しくも予選リーグを勝ち抜くことはできませんでしたが、近畿の優勝校に勝つなど白高らしい堂々とした戦いぶりでした。剣

道では拍手のみでの応援が徹底されており、気品の高さを感じました。陸上・八種競技は2日間で八種目をこなさなくてはならず、最後の1500mでは皆倒れ込むようにゴールしたのですが、出場した全員が手を取り合いスタンドに向かって礼をし、着ていたユニフォームを投げ上げ、喜びを表していました。そこには順位に関係なく、ともに戦った仲間である意識がよく伝わってきました。弓道は個人戦で薄井健君が決勝リーグに進出して勢いをつけ、団体戦準決勝では優勝した岡山工業に16対16からの競射で敗れはしましたが、緊迫した戦いを次々と制し、集中力の高さを全国に示しました。特設で体育館での試合となりましたが、剣道と違い射抜いた場合の「よし」といった各チームの声かけが許されています。また、4射全部射抜いた場合には全体からの拍手が沸くなど、会場一体となった雰囲気を感じ出していました。こうした高揚した雰囲気の中で力を発揮できることは至福の経験となることでしょう。いずれの競技においても本校生は、身体のみならず、心のコンディショニングを整え、知をはたかせ全力で戦ってくれました。

私たちは3年後には百周年を迎えます。教育改革が進む中、変化を恐れず理想を追求していきたいと考えています。一方で、皆様の力をお借りしながらこれまでの伝統を繋ぎ、さらに地域に愛される学校を目指して取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

## 令和元年度同窓会総会開催

去る五月十八日(土)、令和元年度白河高等学校同窓会総会が東京第一ホテル新白河にて開催され、七十七名の参加がありました。同窓会・金沢隆夫事務局長(高23)の司会進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、参加者全員での校歌斉唱を行った後、この一年間のうちにご逝去された会員の方々のご冥福を祈って、黙祷を行いました。



続いて安田好伸会長(高18)からの挨拶があり、次に田中誠校長から白高の近況報告を含めての挨拶がありました。その後、各支部を代表して出席された、西郷支部長の金澤隆夫氏(高23)、埴支部長の石井久雄氏(高22)、東京登龍会会長の遠藤泰司氏(高9)が紹介されました。続いて来賓を代表して後援会会長の櫻井和朋氏(高12)

と保護者と教師の会会長の岡部伸一朗氏(高45)、顧問の満山喜一氏(高22)からのご祝辞をいただきました。続いて議事に入りましたが、慣例により還暦を迎えた高29回卒業生の中から鈴木茂久氏が議長に選出されました。まず庶務の金内貴弘氏(高40)から平成30年度事業報告、会計の石塚次男氏(高26)から平成30年度決算報告が、加えて会計監査の立花栄治氏(高18)から監査報告があり、それぞれ承認されました。続いて役員改選が行われ、会長の安田好伸氏(高18)、副会

長の金子芳尚氏(高26)、会計監査の立花栄治氏(高18)が退任し、新同窓会会長として鈴木雅文氏(高28)が選出されました(14ページに改選後の役員を掲載)。続いて金内氏から令和元年度事業計画案、石塚氏から令和元年度予算案が提案され、承認されました。その後、鈴木雅文新同窓会会長から創立百周年記念事業について学校、保護者と教師の会、白河高校講演会、同窓会が協力し、百周年記念事業実行委員会設立準備会が立ち上がり、準備を進めていると報告がありました。

最後に金子芳尚副会長(高26)が閉会を宣言し、総会を終了しました。





平成30年度  
白河高等学校同窓会会計決算書

令和元年度  
白河高等学校同窓会予算書

収入の部 (単位 円)

項目	30年度予算額	決算額	備考
繰越金	1,224,550	1,224,550	
入会金	909,600	902,400	752名
賛助金	2,000,000	2,216,734	
同窓会基金	0	0	
雑収入	850	15,038	名簿販売・利息他
合計	4,135,000	4,358,722	

収入の部 (単位 円)

項目	元年度予算	前年度予算比	備考
繰越金	988,460	△ 236,090	
入会金	865,200	△ 44,400	1クラス減
賛助金	2,000,000	0	
同窓会基金	510,000	510,000	基金より取り崩し
雑収入	40	△ 810	利息
合計	4,363,700	228,700	

支出の部 (単位 円)

款 項目	30年度予算額	決算額	備考
総務費	515,000	442,393	
事務費	30,000	24,614	事務用品他
通信費	90,000	102,920	郵便料金等
会議費	120,000	34,941	常任理事会他
総会費	120,000	89,400	総会諸経費
旅費	60,000	57,340	東京登龍会参加旅費
慶弔費	20,000	2,570	香典・弔電
交際費	75,000	130,608	広告掲載費
教育助成費	465,000	439,361	
学校図書充実費	150,000	150,000	
体育文化助成費	80,000	56,000	祝看板代
卒業記念品助成費	85,000	83,361	印鑑代補助
進路対策費	150,000	150,000	
事業活動費	2,222,000	2,338,508	
支部育成費	70,000	42,000	支部総会諸経費
会報発行費	1,950,000	2,167,128	会報印刷代、送料他
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	129,380	登龍賞楯、刻印他
基金	150,000	150,000	
同窓会基金	150,000	150,000	
予備費	783,000	0	
予備費	783,000	0	
合計	4,135,000	3,370,262	
次期繰越金	0	988,460	

支出の部 (単位 円)

款 項目	元年度予算	前年度予算比	備考
総務費	646,400	131,400	
事務費	30,000	0	事務用品他
通信費	100,000	10,000	郵便料金等
会議費	120,000	0	常任理事会他
総会費	100,000	△ 20,000	総会諸経費
旅費	60,000	0	東京登龍会参加費
慶弔費	20,000	0	香典・弔電
交際費	216,000	141,400	広告掲載費
教育助成費	465,000	0	
学校図書充実費	150,000	0	
体育文化助成費	80,000	0	祝看板代等
卒業記念品助成費	85,000	0	印鑑代補助
進路対策費	150,000	0	
事業活動費	2,472,000	250,000	
支部育成費	70,000	0	支部総会諸経費
会報発行費	2,200,000	250,000	会報印刷代、送料他
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	0	登龍賞楯・刻印他
基金	0	△ 150,000	
同窓会基金	0	△ 150,000	
予備費	780,300	△ 2,700	
予備費	780,300	△ 2,700	
合計	4,363,700	228,700	

同窓会基金定期預金の総額は7,108,893円となります

# 令和元年講演会の開催について

○講師：吉成 大四郎氏

演題：「日本の国立劇場」

○講師：寺島 実氏

演題：小惑星探査機「はやぶさ2」の使命と日本工機の技術

本年度の講演会は、昨年還暦を迎えた高29回卒の吉成大四郎氏と同じく高29回卒の寺島実氏をお願いいたしました。

吉成大四郎氏は、学習院大学哲学科卒で、国立劇場に就職後、平成9年に新国立劇場が開場（オペラ・バレエ・演劇などを上演）。平成16年に国立劇場おきなわが開場（組踊・琉球舞踊などを上演）。また、伝統芸能を上演するほかに、伝承者の養成や調査研究も行っているとのこと。



吉成 大四郎氏

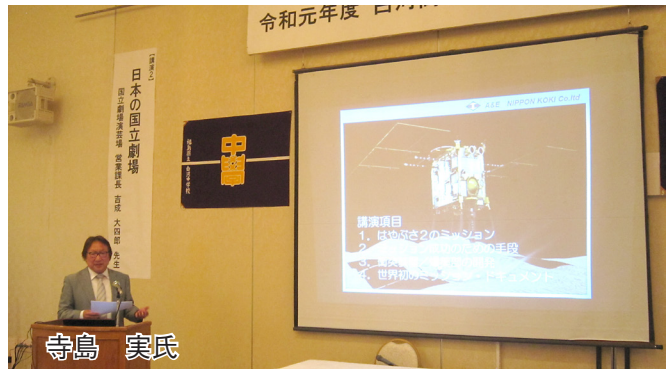
国立能楽堂、国立文楽劇場、新国立劇場に勤務され、現在は国立演芸場営業課長を務められています。

吉成氏は、国立劇場の沿革と上演される芸能についてお話をされました。昭和41年に最初の国立劇場本館が開場（大劇場では歌舞伎・日本舞踊・演劇を、小劇場では文楽・邦楽等を上演）。昭和54年に国立演芸場が開場（落語・漫才などを上演）。昭和58年に国立能楽堂が開場。昭和59年に国立文楽劇場が大阪市に開場（人形浄瑠璃・文楽などを上演）。

平成9年に新国立劇場が開場（オペラ・バレエ・演劇などを上演）。平成16年に国立劇場おきなわが開場（組踊・琉球舞踊などを上演）。また、伝統芸能を上演するほかに、伝承者の養成や調査研究も行っているとのこと。

寺島実氏は、東海大学理学部卒で、在学中に全日本学生プロレス（UWF）を創設。日本工機（株）に入社し、現在は取締役白河製造所長を務められています。寺島氏は、小惑星探査機「はやぶさ2」と日本工機との関わりについてお話をされました。

現在、地球の起源を調べるために小惑星「リュウグウ」の探査を行っている「はやぶさ2」のプロジェクトにおいて、日本工機（株）では「はやぶさ2」に搭載された衝突装置の爆薬の製作を担当し、この装置は4月5日予定通り作動し、「リュウグウ」の地表面にクレーターを生成するという世界初のミッションを成し遂げました。「はやぶさ2」の動向は、テレビや新聞等で大きく取り上げられており、講演会に出席された皆さんは、はやぶさ2プロジェクトや衝突装置の



寺島 実氏

構造・作製の過程、苦労話、クレーターの発生状況などのお話に興味深く聞き入っていました。吉成氏、寺島氏、お忙しいところ、講演をいただき、誠に有難うございました。

## 後援会入会のおすすめ



後援会会長 櫻井 和朋 (高12)

第16回後援会総会は、平成31年4月27日（土）白河高校大体育館で行われ、全議案可決あるいは承認されました。平成30年度までの予算は、500万円を超えておりましたが、今年から、すべての学年の生徒数が240人になり、450万円台になりました。ただ、今年度から県がエアコンの必要性を認め、年50万円程度の補助金をつけてくれるそうです。

いづれにしても、限られた予算なので、より大切に、丁寧に運用したいと存じます。さて、5月から令和元年が始まり、高校野球の甲子園大会も101回という新しいサイクルに入りました。今大会より、「暑さ」「休養日

の増加」対策が実施され、さらにタイブレークの試合もありました。懸案になっておりました投手の球数制限も公式に議論され始められました。ところで、今年の出場校は、49校でしたが、市立、県立の高校は14校で昨年、一昨年の8校より増加しております。中には、広島商、熊本工などなかなかいい校名もありました。決勝戦（甲子園では、優勝戦といっておりました）は、8月23日、大阪代表の履正社と石川代表の星稜で行われ、履正社が初優勝し、大阪代表として、昨年の大阪桐蔭に続く二連覇となりました。

八田英二審判委員長は、閉会式で全48試合中、一点差の試合が、15試合あったことをあげ、「例年にもまして好試合が沢山ありました。球児諸君は、この大会にかけての情熱を大会終了後も、自らの新しい目標に向けて持ち続けてほしい。その際、3つのPを心がけてください。プライド、パリパレーション、プログレスです」と講評しました。登竜健児の皆さんも、自分の進路目標の達成のため、日々努力していただければと思います。登竜健児の活躍と、先輩諸兄の益々のご清栄を心より祈念いたします。



# 母校だより

## 人事異動

令和元年度の人事異動は、次の通りです。

三月末には、菊地康博教頭先生が定年退職されたのをはじめ、ほかに十四名の教職員がご退職・ご転出となりました。そして、四月一日には、湯本高校から松田優之教頭先生をお迎えしたほか、十三名の教職員の方々を本校にお迎えいたしました。

その中で同窓生は、ご転出が緑川誠先生(高45・数学)が県南教育事務所指導主事へ、仁井田重人先生(高53・音楽)が茨城県立東海高校への合わせて二名でした。また、新たに転入された先生方は、いわき翠の杜高校から蛭田一隆先生(高52・理科)、新規で野木良一先生(高25・理科)、渡邊康介先生(高66・体育)、鈴木諒先生(高67・地歴)の四名です。

今年度も、本校は教育熱心で優れた指導力を持つ先生方をお迎えすることができました。授業はもちろんのこと、部活動をはじめ、学校生活の様々な面で暖かく、そしてきめ細やかに生徒に接していただき、地域のリーダーとして、さらには国際社会の中で活躍できる人材として生徒たちが成長できるよう、ご指導いただいております。



教頭  
松田優之

この四月に湯本高等学校から異動いたしました。三年後に創立百周年を迎える伝統校に勤務できることは無上の喜びでございます。

創立百周年に向けて、同窓会の皆様をはじめ、父母と教師の会や後援会の方々と準備を進めております。地域の方々と連携を深め、県内有数の伝統校である白河高校の魅力を発信していきたいと思っております。社会に貢献し、多方面で活躍する人材育成のために、教職員と力を合わせて尽力します。これからも変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。



教諭  
蛭田一隆  
(高52)

白河高校を卒業して十九年、教諭として母校に帰って来ることができました。

先輩方が築いてこられた伝統を受け継ぎ、日々向上心を持って頑張る生徒たちと過ごす日々に大きな喜びを感じる反面、母

校の教壇に立つからこそその不安もあります。しかし、幸いなことに本校には経験豊かな先生方、心強いOBの先生方がおられますので、先生方にご指導をいただきながら、生徒たちの目標達成に向けて尽力していきたいと考えております。



講師  
野木良一  
(高25)

二年振り三度目、通算二十二年目の母校勤務になります。

今回は、時間講師として週四日、各四時間の勤務形態です。限られた時間の中で、後輩達の希望進路の実現を第一に取り組んでいきます。よろしくお願いたします。



講師  
渡邊康介  
(高66)

四月から白河高校に時間講師として勤務させていただくことになりました。私は、6年前に卒業した白河高校OBということもあり、母校に教師として帰らせていただけたことをとても

幸せに感じております。教員として、OBとして、生徒たちにとってたった一度きりの高校生活をかけがえのない3年間だったと感じてもらえるよう、日々精進していきます。

進学にはあまり関係性のない保健体育ですが、生涯を通じて、生徒たちが日々心身ともに元気に明るくたくましく成長していくために、精一杯頑張っていきます。



講師  
鈴木諒  
(高67)

今年度より常勤講師として白河高校に参りました。私の在学中よりも、生徒の学習意欲、部活動に対する熱意、学校行事への参加姿勢など、どの場面でも熱心で、驚きを受ける日々を過ごしています。

白河高校で私が学んだことを白河高校の後輩達へ伝えることで、創立百周年に向けた準備を進めたいと考えております。歴史と伝統を受け継ぐ白河高校卒業生として、微力ながら尽力したいと考えております。よろしくお願いたします。

## 図書館だより

図書主任 野中智幸

本校図書館では、同窓会よりご寄付をいただき、「大学への数学」「ニュートン」「イングリッシュジャーナル」や「新聞ダイジェスト」など、学問の探究・小論文対策の一助となるような雑誌を中心に購入しております。また、同窓生の嶋倉晃様(高1)より、平成元年から毎年多くの図書を寄贈していただき、「嶋倉文庫」として

総数 四千四百八十三冊になりました。同窓会の皆様のご厚志に心より感謝申し上げます。このような同窓会からの寄付や寄贈により、本校図書館の蔵書は充実しています。こうした恵まれた環境のもとで生徒たちは、読書活動を通じた人間形成をはじめとして、進路実現に向けた学習活動に励んでいます。



進路報告

東京大学二名(現一・浪一)
北海道大学二名(医学部・文学部)
東北大学二名(工学部・経済学部)
福島県立医科大学をはじめ
現役白高生三年連続国公立大学合格者一〇〇名突破!

進路指導主事 飛澤 恒

今春の卒業生二七七名も進路目標の実現に向け、三年間学業に部活動等に熱心に取り組む、下表のように見事な進路実績を残すことができました。

今年度は、三年ぶりに二名及び理系では十一年ぶりに東京大学合格、また北海道大学医学部には平成初の合格者を輩出することができました。本人の並々ならぬ努力はもちろんですが、支えてくださったご家族、応援してくださいました地域の方々のおかげであることも合格の要因に違いありません。さらに、この報に際しまして、同窓会・後援会の会長様はじめ役員の方々から学校長宛に祝福の言葉葉を頂きました。誠に感謝の念に堪えません。

さらに、今年度も県内では数校しか達成できなかった現役国公立大学合格一〇〇名を越えることができました。特徴的なのは、公立大学に三九名合格したことです。下表のとおり北は釧路公立大学から南は沖繩の名桜大学まで全国各地を受験し合格したことです。本人・保護者・学校の三者間で密接に懇談ができた結果だと思われまます。

またこれらの大学合格者のうちの数%は指定校制によるものです。先輩方が高校・大学において学問に励み、研究と修養を積み、社会人として活躍し続けていることで白河高校生を対象としてくれる入試制度です。感謝の気持ちを忘れず、先輩方からの伝統を後輩に引き継げるような大学生活を送ってください。

平成最後となる今年度合格した生徒諸君も先輩方に習い、充実した大学生活を送ってくれることを祈念するとともに、在校生も先輩方を目標として学業に部活動に励んでくれることを期待しています。

平成30年度卒業生 大学等合格状況一覧

《国公立大学・準大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists various national and private universities with their respective student counts.

《私立大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists private universities with their respective student counts.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists various private universities with their respective student counts.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists various private universities with their respective student counts.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Summary table for private universities with total counts.

《短期大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists short-term universities with their respective student counts.

《専門学校》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists vocational schools with their respective student counts.

《留学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists students who studied abroad.

《予備校等》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H29, H28. Lists preparatory schools and other institutions.

平成30年度卒業生 進路先状況一覧

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計. Summary table showing the total number of graduates and their destinations.



# 進学報告

## 大学生になって



一組  
海老原 晃

りでは無いです。高校の時よりは自由な時間が増えたので野球のサークルに顔を出したり、野球観戦に行ったりして失われた青春(？)を取り戻してやっています(笑)。またまりのない文章になってしまいました。がここまで読んでくれた皆さんありがとうございます。最後に白高生の皆さんへ、二度と無い高校生活なので勉強も部活も学校行事もやりたい事全部やって充実した生活を送ってください！

## 北海道大学へ進学して



一組  
佐川 航太

大学に入学してから約半年が経ちました。時間の流れが高校生活以上に早いと感じています。大学は高校と異なり、あらかじめ決められた時間割は無く、開設されている講義の時間と内容をもとにゼロから組むことができます。また、自由に学習することができ、一年次に一般教養科目を学ぶカリキュラムになっているので、この半年間だけでも知識の幅が広がりました。大学での最初の一年間で身につける知識を今後活用できるようにしたいと思っています。

大学に入ってから学習の幅が広がりました。大学での最初の一年間で身につける知識を今後活用できるようにしたいと思っています。表現力が求められることが多いように感じます。レポートやプレゼンテーションなどで相手に伝える力が必要であり、慣れるまでに少し時間が掛かりました。これからは自分が知っていたら良いだけでなく、それを他の人に誤解なく伝えるという力が必要なのだろうと感じました。

こんには。今春から東京大学教養学部理科I類に通っている海老原晃と申します。最近はやっと大学生活にも慣れとても楽しい生活を送っています。大学に入って最初に驚いたことは、やはり周りの人のレベルが高い事です。自分より理解のスピードが速かったり、内容を深く理解していたりして初めは自信を失いかけてました。しかし今では、それも受け入れつつ周りに刺激されながら勉強に励んでいます。大学で学ぶ内容はどれも高度で難解ですが、高校で習った事の延長であったり組み合わせであったりする事も多く、白河高校で学んだことが活かされているなと感じています。例えば力学では高校で行なった課題研究の内容が詳しく説明されていてとても面白かったです。

六月には大学祭があり、学生が主体となって多くの出店や展示、上演などが行われました。日本の方だけでなく外国からの来場者も多数見られたことが特に印象的でした。また、学内にも多くの留学生が在籍しており、彼らにとっては不思議な日本の文化について聞くことができるとも面白い事です。大学に限らず、道行く人の話している言葉が日本語ではなかったり、海外出身の方が経営している飲食店があったりと、様々な言語や文化に触れる機会が多いです。

大学では高校にいたる間には想像もつかなかったようなことたくさんあります。先輩の皆さんも現在志望している大学に合格して、自由に学び、より広い世界で生活できることを願っています。応援しています。

## 筑波大学に進学して



二組  
畠 遼太郎

私は現在、筑波大学人文・文化学群人文文学類に在籍しています。筑波大学での生活は、毎日が本当に濃く、充実しています。私の所属している人文学類は、哲学や歴史学、言語学など、人間が営む文化の諸分野を主な研究対象とし、それを通して人間の本質に迫ることを試みる学問分野です。その中でも私は古代西アジア史を専攻しています。この分野では、主にメソポタミア文明期を研究対象とし、当時の歴史や文化について学び、考察していきます。当時使われていた楔形文字を実際に読

むこともします。筑波大学は古代西アジア史の研究に力を入れているため、学習内容が非常に充実しています。さらに、周囲には自分と同じ興味・関心を抱く学生がたくさんいるので、お互いに語り合いながら学習することができ、とても楽しいです。

このような学習面だけでなく、サークル活動も充実しています。筑波大学には二〇〇以上のサークルがあります。私は、大学から新たに始めたバドミントンのサークルと、サッカーを通じて海外支援を行うボランティアサークルに所属しています。両者とも、学年や学類、更には国籍を越えた人との繋がりを築くことができたこと、これまで経験できなかったことを経験できたこと、自分の成長に大きく結びついていてることを実感しています。

筑波大学での生活は、ほとんど全てが自由です。高校までの受動的な生活ではなく、自らで考え、行動するとても主体的な生活になります。初めはそのギャップに戸惑うかもしれませんが、自分の好きなことに好きなだけ取り組み、自分の好きなことに好きなだけ取り組み、大いに充実させることができます。

## 東京外語大学に進学して



二組  
古川 理穂

受験期は本当に大変ですが、その先には好きなことに打ち込める最高の場所が待っています。皆さんが自分の希望の進路に進むことができるよう、祈っています。

「東京外国語大学(以下、外大)です。」と答えると、大抵「外語祭楽しそうだよな。」と会話が始まります。外語祭は年に一度、五日間開催される文化祭のことで、外大のイメージとして思い浮かべる人も多いかもしれません。実際に外大生にとっても外語祭の存在は大きく、特に一年生は各専攻語地域の料理店(外大には二十七言語あります)を開くため、私が所属するフランス語科も入学後まもなく、手探りで準備を始めました。しかし外語祭はみなさんからもよく見える部分なので、ここからはもう少し私がいかに外大に入學して感じていることを述べます。

外大は、専攻語の授業がハードながらも手厚く、留学二百パーセント(一人二回)を目指して留学制度を充実させるなど、大学自体も特徴的ですが、学生はそれ以上に特徴的です。外大生は大半が何かしらの形で留学するほか、休暇を利用してたり休学したりして、通訳ボランティアとして世界一周の船に乗ったり、あるいはバックパッカー一つで世界を旅したりと、一人一人がユニークな大学生活を送っています。四年を超えて在学する学生が多いのも、それだけ自分

がやりたいことを追いかけている方が多いことの表れだと感じます。この環境の中で積極的に様々な人と関わり、今まで想像もしなかったような考えに出逢うことで、自分の枠を超えた大学生活のヴィジョンが少しずつ見えてくるように感じます。自分の意志さえあれば、どんなことにも、いくらでも挑戦でき、その手段も豊富に用意されている、あるいは創り出せる、それが外大です。私もこれから外大でのネットワークを広げつつ、心残りのない大学生活を送っていきます。

部活動大会記録

各部の主な成績

陸上競技部

第六十五回福島県高等学校体育大会  
会県南地区大会

男子4×400m R(リレー)

第3位 白河高校

男子110m H(ハードル)

第3位 平子駿翔

男子八種競技

第1位 大会記録  
根本大輝

女子110m H

第2位 古川遙花

選手優秀賞 根本大輝

第六十五回福島県高等学校体育大会

男子八種競技

第1位 根本大輝

東北高等学校選手権大会

男子八種競技

第1位 根本大輝

県南陸上競技選手権大会

男子110m H

第2位 平子駿翔

女子棒高跳び

第1位 芝澤伶瑛

全国高等学校総合体育大会

男子八種競技

第16位 根本大輝

バレーボール部

第六十五回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会 兼 春季県南バレー

ボール選手権大会

男子 第1位 白河高校

女子2部 第1位 白河高校

第六十五回福島県高等学校体育大会

男子 第3位 白河高校  
夏季県南バレーボール選手権大会

男子 第2位 白河高校

水泳部

第六十五回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

男子100m背泳ぎ

第2位 山野辺幸太

第六十五回福島県高等学校体育大会

男子100m背泳ぎ

第2位 山野辺幸太

男子50m自由形

第6位 山野辺幸太

(背泳ぎ・自由形 東北大会出場)

ソフトテニス部

第六十五回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

男子団体の部

第5位 白河高校

女子団体の部

第3位 白河高校

女子個人の部

第4位 佐藤萌菜実・草野桃子

第5位 須藤 楓・武藤緋音

第6位 大平桃子・角田萌夏

第七十二回福島県総合体育大会

南地区大会

男子個人の部 ベスト16

飛知和明輝

女子個人の部

第3位 佐藤・草野

女子個人の部

第6位 近藤陽菜・片貝文香

第七十二回福島県総合体育大会

女子個人の部 ベスト32

佐藤・草野

サッカー部

第六十五回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

第4位 白河高校

第六十五回福島県高等学校体育大会

ベスト16 白河高校

弓道部

第六十五回福島県高等学校体育大会

男子団体 第1位 白河高校

男子個人 射道優秀賞 白河高校

薄井 健

東北高等学校選手権大会

男子団体 第3位 白河高校

男子個人 第5位 薄井 健

第七十二回福島県総合体育大会

少年男子団体 遠的

第1位 白河高校A

第3位 白河高校B

少年男子団体 近的

第1位 白河高校A

少年男子個人 遠的

尾嶋 駿

第2位 薄井 健

第4位 松崎雄輝

第5位 遠藤選志朗

少年男子個人 近的

第3位 松崎雄輝

第5位 薄井 健

総合 少年男子団体

第1位 白河高校A

射道優秀賞 松崎雄輝

全国高等学校総合体育大会

男子団体 第4位 白河高校

男子個人決勝リーグ進出

薄井 健

卓球部

第六十五回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

女子学校対抗

第3位 白河高校

女子シングルス

第3位 喬橋飛香

第七十二回福島県総合体育大会

南地区大会

少年男子団体 第2位 白河高校

少年女子シングルス

第3位 喬橋飛香

剣道部

第六十五回福島県高等学校体育大会

女子団体 第1位 白河高校

女子個人 第3位 花岡彩葉

第七十二回福島県総合体育大会

南地区大会

女子個人 第1位 佐藤佳音

女子個人 第2位 後藤香音

女子個人 第3位 佐藤 桜

女子個人 第3位 菅田明日香

東北高等学校選手権大会

女子団体3位 白河高校

第七十二回福島県総合体育大会

女子団体 第1位 白河高校

全国高等学校総合体育大会

女子団体 予選リーグ敗退

(1勝1敗)

東北総合体育大会

少年女子 第4位 白河高校

第六十五回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

男子 ダブルス

第5位 池本海周・稲川堯純

第9位 芝澤 豪・菊地秀一

第10位 下重勇人・小林空翔

シングルス

第5位 稲川堯純

第10位 菊地秀一

第七十二回福島県総合体育大会

南地区大会

男子 ダブルス

第3位 池本海周・稲川堯純

第11位 芝澤 豪・菊地秀一

シングルス

第5位 芝澤 豪

第5位 菊地秀一  
女子 ダブルス

第10位 黒坂優衣・野崎雪乃

テニス部

第六十五回福島県高等学校体育大会

男子ダブルス

太田 宙・金澤波音

第七十二回福島県総合体育大会

男子 シングルス 深谷唯翔

女子 シングルス 佐藤クレア快

第六十五回福島県高等学校体育大会

会地区大会

男子 第6位 (県大会出場)

女子 第9位 (県大会出場)

書道部

第43回全国高等学校総合文化祭

特別賞 佐藤朱音

第20回高校生国際美術展

優秀賞 菅原未夢

美術部

令和元年地域安全ポスターコンク

ル

最優秀賞 矢作百花

優秀賞 大和地弘寿

吹奏楽部

第22回 定期演奏会

6月16日(日)

白河文化交流館「コミネス」

第57回福島県吹奏楽コンクール

南支部大会

高等学校小編成の部

「金賞」白河高校

第57回福島県吹奏楽コンクール

高等学校小編成の部

「金賞」白河高校

写真部

第43回全国高等学校総合文化祭

兼子喜史・金子真萌



## 部活動報告

## インターハイに参加して

陸上部顧問 山上知耶

八月四日から五日まで、令和元年度全国高等学校総合体育大会に出場することができました。陸上競技部は、インターハイへの出場を目標に日々練習に取り組んできたので、この大会へ参加できたことの喜びは一入でした。

出場した選手は、三年生の根本大輝君です。出場種目は八種混成競技です。この競技は、二日間合計八種の競技を行い、その記録を得点に換算し、合計得点で競う競技です。五月に始まった地区大会から六月の東北ブロック大会まで、一位で入賞、そして、地区大会では、大会新記録、秋田県で行われた東北ブロック大会では、悪天候の中、自己ベストを樹立するなど、素晴らしい成績を残すことができました。

そして、沖縄で行われた今大会では、初めての飛行機での移動、沖縄の特有の気候など良くない条件が重なりましたが、根本君は、「競技を楽しむ」ことを

目標に、のびのびと試合に参加することができました。その結果、全国で第十六位になることができました。また、根本君と同じように多くの大会を勝ち抜いてきた他県の選手とも交流ができ、深い絆が生まれたこともかけがえのない思い出になったようです。

最後になりましたが、遠い沖縄まで、根本君のご家族、同級生そして校長先生が応援に来てくださいました。このことは、根本君を大いに勇気づけ、励みになったことと思います。ありがとうございました。



## 南部九州インターハイに

## 参加して

剣道部 監督 佐藤裕展

剣道部は女子団体で8月3日から熊本県で開催されたインターハイに参加してきました。剣道部としては十年連続でのインターハイ出場ですが、昨年は個人戦のみでの出場でしたので、

今回は何としても団体で全国大会を戦いたいという思いをもって一年間準備してきました。選手は五人中四人が二年生で精神的にもろさを感じ、勝負の場面では不安要素でした。その不安からいつもならインターハイ予選前は選手自身に練習内容や調整を任せてきましたが、今年は監督としてできる限り積極的に働きかけをしてきました。ただそれは、選手の成長にとってはマイナスになることも覚悟していました。県大会では三年生で唯一試合に出ている佐藤桜が活躍もあり、ギリギリの戦いながら優勝することができました。とことんまで頭を使って、戦略・戦術を使って戦って手に入れた優勝でした。インターハイではベスト8を目標に参加しまし



たが、三校の予選リーグで近畿チャンピオンの京都久御山には勝ちましたが、地元熊本の上綱に敗れ予選敗退となってしまいました。ただ全国の舞台で強豪校に一勝できたのは、精神的に不安だった二年生四名の成長があったからこそと思います。二年生は日本一を狙って新たなシーズンに入りますが、昨年自分達が過ごした一年生の時を振り返りながら後輩に声をかけ、チームとして日本一を目指して欲しいと思います。また、三年生の佐藤桜は東北大会、全国大会では力及ばず悔しい戦いばかりでしたが、頑張らなければインターハイの舞台に立てなかったことを忘れず、努力とまわりに

## インターハイに出場して

弓道部 主将 薄井 健

対する感謝を忘れずに新たな目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。そして大会には出場していませんが、もう一人の三年生佐藤伊紗那には、この白河高校剣道部を最後まで続けたことを自信にし、次の目標に向けて頑張ってくださいです。私たちは剣道部ですが、生徒達にとって剣道界だけで通用することではなく、普段の生活や社会でどうすべきかを身につけられる活動を心がけていきたいと思えます。その先に日本一があることを信じています。今回のインターハイ出場に際し、多くの方々にご支援いただき、ありがとうございました。

私たち弓道部は8月7日から10日にかけて宮崎県都城市の早水公園体育文化センターで行われた令和元年度全国高等学校総合体育大会弓道競技の個人戦と団体戦に出場してきました。インターハイ会場では台風の影響により前日の公式練習ができなくなってしまう不安はありましたが、宿舎で個人個人が練習を

して翌日に備えることができた。個人戦では決勝までいったものの、準決勝で外した一本を引きずって射詰の一本目で外してしまい、順位に食い込むことができませんでした。次の日には団体戦があったので、切り替えて団体戦に集中しました。団体戦では団体のテーマである「いつも通り、楽しく」ということを心がけていたため、インターハイという大きな会場でも白高弓道部らしい自分たちの射をすることができ、予選は十四中でしたが決勝トーナメントでは十八、十八、十六、十六と高い的中を維持することができました。悔しくも準決勝で岡山工業に敗れてしまい結果は四位で、目標であった全国制覇を達成す



ることはできませんでしたが、全国四位ということを誇りに思いたいと思います。最後に今までご指導いただいた先生、コーチ、先輩方、三年間支えてくれた保護者の方々に感謝して、このすばらしい経験を忘れず、三年間で学んだことを今後の生活に生かして頑張っていきたいと思えます。

### 佐賀総文に参加して

書道部三年 佐藤朱音

第43回全国高等学校総合文化祭(さが総文)に参加しました。全国から集められた作品は魅力的で目を引かれるものばかりでした。楷書をはじめとする様々な書体を見て、より一層新たな作品に挑戦したいという思いが強くなりました。今年度は私が書いている楷書の造像記と同種の作品が多く、改めて自分の作品を見つめ直す良い機会になりました。交流会では、佐賀県の

特産品である名尾和紙に未来への想いを書いてバルーンを合作したり、佐賀県出身の書家・中林梧竹さんの追体験をしたりしました。他県の皆さんとの交流を深めることが出来て貴重な体験となりました。

また、今回特別賞をいただきました。校長先生、佐藤真紀先生をはじめとするご指導、励まし

の言葉を下さった先生方、部員の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございます。

この喜びと沢山の人々に支えられてきたという感謝を忘れず、今後何事も諦めず、地道に頑張っていきたいと思えます。

### まんが甲子園を終えて

美術部二年 矢作百花

五月にまんが甲子園チームを結成した私たちは、六月の予選を突破し、八月三日・四日に高知県で行われた本選大会に出場しました。本選では、事前に発表される五つのテーマの中から三つが実際に使用されます。中でも最も苦戦したテーマが「元年」で、高知に発表する五日前までネタが決まりませんでした。一枚の作品で内容をしっかりと



### 佐賀総文に参加して

写真部三年 兼子喜史

私は七月二十八日から三十日までの三日間、佐賀県で行われた全国高等学校総合文化祭の写真部門に参加してきました。

伝える必要があるため、櫻田教頭先生をはじめとする多くの先生方に助言をいただきながら話し合いを重ねました。大会当日の第一次競技では五時間半の制作で頑張りましたが、決勝に進むことができません、敗者復活戦で深夜二十四時までA2サイズの作品を制作しました。その日は合計十一時間の制作で疲れていましたが、誰一人弱音を吐かず、最後まで楽しく協力して作品を仕上げました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、この経験は自分たちが成長する良い機会となりました。応援してくださいくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、今後の制作も精一杯努力していきたいです。

ある嬉野市内の散策をしました。一グループ十三人程度の班に分かれてそれぞれが持ってきた写真を交換し合い、一冊のアルバムを作成しました。その後私たちの班は嬉野茶畑へと向かい、班のメンバーや地元の人たちとの交流と撮影を行いました。交流中は特産品である嬉野茶をいただいたほか、班のメンバーの撮影時の様子や工夫を見ることができ、また、それぞれの趣味や人柄に接することができたとでも有意義な楽しい時間でした。二日目の撮影では、全国でも有名な陶磁器の産地である有田町に行きました。撮影会中は天候が安定せずあいにくの天気でしたが、風情が残る街並みや有名な有田焼、それに携わる人たちに触れる機会が多くありました。その中で有田町ならではの写真を撮ることができ、普段とは一風変わった撮影会だから





### 支部だより

## 令和元年・

## 東京登龍会を開催

副会長 庄田育夫(高17)

この作品作りを行うことができた貴重な一日でした。三日目は受賞作品の公表会に参加してきました。全国から集められた作品を鑑賞し各県ごとの特色や撮影者たちの努力が垣間見え、改めて全国のレベルの高さを感じました。そして、受賞した作品についての解説から作品それぞれの独自の着眼点や張り巡らされた工夫を知り、自分の写真に足りない部分や改善すべき部分がわかり、とてもよい刺激を受けました。

今回、佐賀総文に参加して普段では味わえない貴重な体験を数多くさせていただきました。初めての土地での初めて会う人々との交流は私にとってかけがえのない経験となりました。この経験をこれからの活動に生かし、後輩たちへとつないでいけるよう頑張っていきたいと思えます。



新元号・令和となった5月25日(土)に、新緑薫る上野精養軒に於いて東京登龍会総会並びに大同窓会(懇親パーティー)を開催しました。加藤直二副会長(高27)の開会宣言並びに司会により、松岡久幸事務局長(高22)の指揮のもと校歌斉唱を行い、一瞬のうちに参加者全員の心が、いにしへの学び舎にタイムスリップしました。

次に来賓の紹介があり、鈴木雅文同窓会長(5月18日開催の同窓会総会にて新会長に選任)、中村彰副会長、田中誠校長、松倉政光旧3学年主任、鈴木敏夫先生及び櫻井和朋後援会長の各氏が、遠藤泰司会長(高9)から紹介されました。そして遠藤会長から、平成から令和への改元という記念すべき年の本総会にあたり挨拶があり、バブル崩壊や東日本震災など苦難の時代にあつて、東京登龍会は会員諸

氏の協力で企画委員会(会長・加藤直二氏)の稼働や、今年の卒業生や女性参加者の増加など順調に推移している。また、来るべき本校創立100周年に向けて本会も協力していく旨の表明がありました。続いて来賓の鈴木



木雅文同窓会長から、学校、保護者と教師の会並びに地域の協力も得ながら、来る100周年への決意と、同窓会の支部強化に努める旨の挨拶があり、田中誠校長からは、生徒たちが質実

剛健・文武両道を旨に頑張っており、学校を挙げて教育向上はもとより、地域に愛される高校を目指して日々励んでいるとの説明があった。我々同窓生としては、今も楽翁公による白河藩校・立教館の精神が時代を超えて立派に受け継がれている、と

後輩たちを頼もしく感じました。更に、鈴木和夫白河市長(高20)からも本総会にあたり、昨年の戊辰150年で示された白河の仁の心を新たな令和時代にも和の心と共に大切に、市政も着実に発展させていきたい旨の祝詞が寄せられました。議事に入り、会計・監査報告及び、小山田吉孝副会長(高20)が今月急逝されたとの報告がありました。謹んでお悔やみ申し上げます。役員選任では、新副会長に庄田育夫常任幹事(高17)と松岡事務局長(高22・兼事務局長)が選任され就任しました。また、上田誠一郎幹事(高20)ははじめ7名が常任幹事に、中目隆夫さん(高24)はじめ6名の方々が幹事にそれぞれ委嘱され就任しました。

(高20)にお願いしました。今、世界中の関心の的である「中国はどこに向かうのか」をテーマに、外交・安全保障・貿易通商問題など、まさしく世界中が注目している諸問題についてお話し頂きました。奇しくも一方の当事者である米・トランプ大統領が令和初の国賓として羽田空港に降り立つ5時間前の事でした。まさに時期を得たテーマでした。細部にわたり平易に説明して頂いたが、講師は中国問題の専門家としての立場から、米中の戦略的問題は無くならない事、巷の一部に見られる楽観的予想の、中国経済は崩壊する、との見方は当たらない事。つまり、中国の存在を認める前提で考えるのが大切であり、我が国も国際協調主義のスタンスが大切であると述べ、最後に後輩の白高生には国際的な感覚を身に付けチャレンジ精神の旺盛な社会人になり、世界で活躍して欲しい、との期待の言葉で講話を締めくくりました。このように毎回の総会での講話を拝聴するにつけ、白中・白高の人材の豊富さと、その歴史に改めて感服するとともに、同窓生の一人として誇りに思うものです。

毎回恒例で楽しみでもある今年の講話は、中国学の権威で東京外国語大学佐藤公彦名誉教授

昼からは楽しみの懇親会に移り、芳賀哲男幹事(高26)の名司会のもと、吉田忠雄顧問(高5)による乾杯の音頭が始まりました。過去最高の7名の大学生参加者の紹介と近況報告並びに本総会に初参加の7名の皆さんからも近況報告があり、新旧世代の交流が積極的に行われました。また、企画委員会の神悦彦幹事(高29)はじめ世代・異業種交流部会の皆さんの尽力により「交流テーブル」が初めて設置され情報交換などを深めることが出来ました。そして歓談を深めたあと全員が輪になり校歌を斉唱し学生諸君にエールを送り、本総会出席者の最高齢である松崎忠利さん(高4・昭和27年卒)に中西恵美子幹事(高22)から花束が贈呈されました。名残り惜しい時間ではありましたが、老若男女の垣根を越えた交流が諮られた極めて有為な総会でした。最後に長谷川由紀子副会長(高10)の閉会の辞で令和最初の東京登龍会総会を閉幕しました。最後になりますが、本総会での写真撮影等に遠路お越し頂きご協力を頂きました菊池敏雄幹事(高27)に厚く御礼申し上げます。

### 西郷支部総会・

#### 懇親会開催報告

支部長 金澤隆夫(高23)

西郷支部の総会は、令和元年8月30日(金)に支部会員24名が出席し、来賓に東宮清章西郷村副村長(高27)、鈴木雅文(高28)同窓会長、松田優之教頭先生、横村勝己(高37)同窓会事務局長を迎えて西郷村の太幸苑で開



催された。8月4日に投票が行

われた西郷村議会議員選挙で当選された真船正晃氏(高22)、君島栄一氏(高23)、松田隆志氏(高25)も出席された。始めにこの3月に急逝された伊藤正美監事(高17)のご冥福を祈って全員で黙祷を行った。金澤支部長の挨拶の後、東宮副村長からは村政の状況などについて、鈴木同窓会会長からは創立100周年と西郷支部・埼支部以外の支部の活性化について、また松田教頭先生からは卒業生の進路状況とインターハイ等での白高生の活躍についてお話がありました。この後、和知有三氏(高22)が議長に選出され、議事では平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画・予算が承認されました。役員改選では、亡くなった伊藤監事の後任に須藤清一氏(高25)が選出されました。懇親会は、最高齢の高木彰夫氏(高10)の乾杯で始まり、思ひ出話や近況の話題など大いに盛り上がりました。

和知肇氏(高14)の句

泡の浮かびし コップの中に  
過ぎし若き日 映り消え

### 埼支部の総会

支部長 石井久雄(高22)

夏の暑い夕方、半袖姿で総会に出席した記憶があるが、最近の開催は冬間近になる11月下旬になっている。日本酒を味わい深く飲む最適の時期にあたるようになったのかもしれない。

開催場所はずっと先輩早田さん経営の無心亭「花屋」でいつもおいしいご馳走で私たちのお腹を満たしてくれる。

会員はかなりの数になっているが、出席するメンバーは固定しつつある。ただ、若い人たちが少しずつ増えてきていることがとても嬉しい。

総会での議長は事務局が任命されていて、数年前に四年連続で私自身が任されていたこともあったが、現在は支部長が行うことになっている。それ程議長が好きだということではないが……

たとつづく思い知らされる。

ただ次の校歌斉唱は一番だけだが、皆よく憶えていて、大きな声で元気に歌うので、とても気持ちよく、黙祷の悲しみから一気に楽しい気分転換できる。議事は例年通り事業報告、会計報告、事業計画等について話し合うが、いつもスムーズに行われる。

総会の議事が終了する頃に、来賓の同窓会長、事務局長、学部長がお見えになり、懇親会の部が始まる。遠路であり、ご多用なのにいつもお顔を出して頂き、遅くまで付き合ってくさる姿勢に深く感謝申し上げます。それからは酒間の席、差しつ、指されつの話し合いで、現在の各自の存在が出てきて、一年一回の開催の総会の意義が確かめられる気がする。この様な話し合いの中から青年部主催によるゴルフコンペが数回開かれた。同じ趣味を持つ者同士が集まり、楽しい一時を過ごすことはとてもよいことと思われ。

最後に創立百周年が近づいてきていますが、埼支部としてもできるだけだけの協力・支援をしていくつもりですので宜しくお願ひします。



# 近況だより

## 懐かしくも

### 素晴らしき同窓生

鈴木茂久(高29)

白高同窓会総会は毎年還暦を迎えた年度が担当するという慣例があることを初めて知りました。そこで地元にいる佐藤幸彦君、金沢博信君他数人に声をかけ、クラスごとに名簿を見ながら案内はがきの発送、また当日の役割分担など総会の運営に携わりました。

内容は前段で2つの講演会、その後総会という流れです。講演会では「日本の国立劇場」と題して吉成大四郎君より歌舞伎や文楽など、日本を代表する古典芸能について、また全国にある国立の施設で伝統文化に触れあう機会を提供していることも知ることができました。さらに「はやぶさ2の使命と日本工機の技術」と題して、世界初となる壮大な宇宙でのチャレンジについて寺島実君よりお話し頂きました。

その後の総会もスムーズに進みました。お楽しみの懇親会では、数十年ぶりの同窓生とお互いの変わり様に驚く場面もありながら、時間の経過を忘れさせる再会に、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

この総会では多くの同窓生の協力と、同窓会長や学校長も含め役員の皆様を支えられ無事終えることができました。心より感謝申し上げます。これを機に

今まで以上、同窓生の交流が深まることと、白高同窓会の益々の発展をお祈り申し上げます。

## 2020オリンピックを目指して



新田祐大 (高56)

同窓会会報を御覧の皆様、こんにちは。平成十五年卒業の新田祐大です。

私は現在、東京五輪自転車トラック競技強化指定選手として国内海外のレースに参戦し、来年に迫る東京五輪でのメダル獲得を目指して奮闘中です。

ロンドン五輪出場の際は、懐かしき母校での講演会を開催して頂き、志高き後輩たちが夢に向かってひたむきに努力される眼差しに勇気もらい、白河高

## 表紙の作品について



小林豊 (高26)

私の白河高校時代は、家と学校が全てでこれから自分がどこに向かっていたら良いのか模索の日々でした。

今の様に情報がすぐ手に入る校OBとしての誇りを胸に日の丸を背負い、五輪の舞台に立ちました。

思い返すと、入学当初私もオリンピックになるという夢を抱きながら、これから始まる学舎での3年間に胸を躍らせる一



状況ではなく、夢は夢のままであるのではないかと、もがき続ける度にいろいろな師との出会いがあり、数々の縁が私を現在へと導いてくれたと思います。九十三回国展「展」はボスターになり国立新美術館内外にクリムト展等と並び掲示されました。次の国展までの間、会のホームページに特集されています。

相も変わらずもがき続ける日々ではありませんが、一貫して追求し

## 叙勲等

- 令和元年春の叙勲
- 旭日小綬章 佐藤正博(高18)
- 瑞宝双光章 佐藤正敏(高19)
- 瑞宝单光章 薄井 栄(高23)

## 訃報

- 君島善次郎(中16) 平30・8・7
- 國井 隆志(高28) 平30・10・31
- 椎名 正征(高14) 平30・11・21
- 佐藤 彰(中22) 平31・2・23
- 金内 実(高8) 平31・2・26
- 大森 正義(高3) 平31・
- 大越 幸雄(高3) 平31・3・15
- 飯泉 雅之(高24) 平31・3・30
- 矢吹 武雄(高10) 平31・3・
- 薄井啓之助(高9) 平31・4・
- 鎌水 武夫(中15) 令元・5・10
- 関根 直治(中21) 令元・5・10
- 小山田吉孝(高20) 令元・5・12
- 立花 栄治(高18) 令元・8・26

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

# 創立百周年に向けて

事務局長 横村勝己(高37)

白河高校は、前身である白河中学校の大正11年の創立から数えて令和4年(2022年)で百周年を迎えます。

この創立百周年という大きな節目において、本校の輝かしい歴史を祝すと共に、将来への更なる発展を祈念する為、現在、創立百周年記念事業への取組を進めております。

昨年の同窓会報でお知らせしました通り、本年2月、学校、保護者と教師の会、白河高校後援会と同窓会の4者による「創立百周年記念事業実行委員会設立準備会」を設立致しました。同準備会では、鈴木雅文同窓会長を実行委員長として選出し、鈴木実行委員長のリーダーシップの下、同窓会名簿部会・記念事業部会・式典部会・記念誌部会・募金部会を立ち上げ具体的な取り組みを協議していく所存です。

先行して着手し、同窓会の皆様に名簿の確認等でご協力いただきました同窓会名簿の作成につきましましては、令和2年1月の完成を目指しております。記念事業・記念講演につま

本校図書館で未収蔵の資料  
①『卒業アルバム』

昭和3年3月卒(以下、3月卒は省略)・4年・6年・7年・9年・12年・14年・27年・32年・43年・53年

②『関河』(白河中学学友会誌) 第1号〜第19号

同窓会事務局

住所 千九六一〇八五一

白河市南登り町五十四  
福島県立白河高等学校

同窓会事務局

電話 〇二四八二四一一六  
(担当・鈴木敏夫)

## 来年度総会のお知らせ

先日の同窓会三役会において、来年度の同窓会総会の日時と会場が、左記の通りに決定しましたので、お知らせいたします。

期日 令和二年

五月十六日(土)

講演会 十六時〜十七時

総会 十七時〜十八時

場所 東京第一ホテル新白河

## 白河高等学校同窓会

### 新役員

役職	氏名	卒回
会長	鈴木 雅文	(高28)
副会長	中村 彰	(高20)
副会長	金澤 隆夫	(高23)
副会長	石塚 次男	(高26)
事務局長	横村 勝己	(高37)
会計	満山 喜美	(高33)
会計監査	有賀 秀晴	(高28)
会計監査	鈴木 茂久	(高29)
会計監査	芝沢 浩	(高39)
庶務	金澤 博信	(高29)
庶務	斎藤 正明	(高32)
庶務	諸橋 和典	(高34)
庶務	藤田 龍文	(高39)
庶務	金内 貴弘	(高40)
庶務	兼子 聡	(高41)
庶務	青木 大	(高43)

### 編集後記

・今年の総会は、役員改選があり会長はじめ気鋭な新役員が選出されました。同窓会・母校の益々の発展そして迎える母校創立百周年事業が盛大に開催されますことを期待しております。  
・今年も異常気象による災害が益々甚大になり、連日報道がされていきますが、全国でご活躍の先輩諸兄弟皆様の被害が少しでも小さい事をお祈りしております。  
・同窓会報への皆様のご意見・ご寄稿を是非お願い申し上げます。

### 会報編集委員会

会報担当	金澤 隆夫(高23)
同窓会副会長	堀川 哲雄(高15)
編集委員長	瀬戸 安夫(高22)
編集委員	横村 勝己(高37)
事務担当(学校)	鈴木 敏夫(高54)
〃	(〃)大竹 儀一(高31)
〃	(〃)増子 芳道
〃	(〃)芳賀太伍万(高63)

## ★賛助金納入のお願い★

会報第一四一号を高51回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、三頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。平成三十年度は二、二一六、七三四円をご協力頂きました。感謝申

申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

賛助金は 一口 一、〇〇〇円  
できるだけ二口以上でご協力ください。

郵便振替番号

〇二一〇〇一四二七七四

加入者名

福島県立白河高等学校同窓会